PROGRAM NOTE　2016 年 11 月

「金の蛙」始末記　小暮　照

HCJB で、拙書「金の蛙」を 2 度も取り上げていただき有難うございます。キトに「アンデスの声」を訪ねてからもう 30 年、「金の蛙」を上梓してから 20 年以上が経ちました。自分でも何を書いていたのか忘れかけていた時だけに、もう一度読み直し、パナマの生活を振り返る機会を与えていただきました。感謝です。

「今聞いても古さを感じさせず、生き生きとしている」との一リスナーの方の感想をうれしく聞かせていただきました。

「金の蛙」には書いていませんが、現地の人に頼まれた一言が、その後の私の人生を決定的なものにしてしまいました。それは

「日本語を教えてください」と、頼まれた一言です。ある程度日本語の会話ができる方だったので、何も考えず安易に引き受けたのはいいのですが、すぐにギブアップしてしまいました。「この二つの言葉は、どう違うのですか?」

と差し出された問題に、まったく答えられなかったのです。

「にほん　/　にっぽん」「私はパナマ人です　/　私がパナマ人です」「見てくれますか? / 見てもらえませんか?」「見てくれますか? / 見てもらえますか?」などなど、いろいろと聞かれ、しどろもどろの答えでは納得してくれるはずもありません。「日本語がこんなに難しかったとは」と自分の勉強の足りなさを認識させられました。

将来、国際交流や国際貢献ができたらと考えていた時だけに、「日本語で国際貢献をしよう」と決心しました。

帰国し早速日本語の勉強を始め、日本語教育は国語教育とは別物だと知りました。私の専門は理科なので、言語教育などというものには全く触れたこともなかったのですが、未知の世界に手探りで飛び込む新鮮な喜びを感じながらの勉強でした。定年退職後、数年して日本語教師の資格をとりました。

教育委員会で転入外国人の子供の日本語指導員となり、さらに専門学校の日本語講師としてしばらく勤めました。また、自宅を改装して日本語教室を始めました。この教室は、訪ねて来るすべての外国人に無料で日本語を教える、また、次代を担う新しいボランティア日本語教師を養成するの二本柱を中心に活動することとしました。しかし、地方ではスペイン語圏の人、特に中南米の人と交わる機会はほとんどありません。生徒もほとんどが中国人だったので、軸足が自然と中国寄りになっていきました。

何回となく中国を訪れ、中国人の子供や学生と接しているうちに、様々な情報を知ることになり、二つのことが心に重くひっかかりました。一つは、中国では都市部と非都市部の学校格差・教育格差が非常に大きく、まるで別の国のように教育内容が違うのです。経済大国になった中国ですが、その恩恵は田舎の子供にまでは流れていないのです。それで、貧困のため学校に行けない児童生徒を援助するグループに加入し、教育費の援助や田舎の学校を訪問してその実情を訴える活動をして来ました。

また、小説やエッセーを書いて、外国で活躍している日本人を紹介したり、中国の教育事情をたくさんの人に知ってもらう活動をしています。パナマで栄養士として活躍していた青年海外協力隊の女子隊員をモデルにした小説を書きました。それを含めた短編小説集「パナマ運河を渡る風」を上梓しました。

もう一つの心配事は、中国でキリスト教や人権派に対する締め付けが厳しくなっていることです。中国国内のキリスト教信者は、潜在信者を含めて 1 億人を超しているといわれています。特に中国には地下教会と呼ばれる非公認のキリスト教会があって、光の当たらないところで命を懸けて信仰を守ろうとしている人達がたくさんいます。昔日本で起こった隠れキリシタンの悲劇が、将来中国で再び起こるのではないかと懸念しています。

ともあれ、「アンデスの声」から「地球規模の視野を持つこと」を教えられました。それに少しでも近づこうと 83 歳の毎日を送っています。

サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫　毎週土曜日放送

１１月　５日	ピアニストへの道　武田志保（１）
１１月１２日	ピアニストへの道　武田志保（２）
１１月１９日	ピアノに魅せられ　立部愛香
１１月２６日	スペイン紀行　下竹　博

バイブル・トーク

淀橋教会　峯野龍弘主管牧師　毎週日曜日放送

１１月　６日	金の蛙（パナマの民族楽器）／聖地ひとり旅
１１月１３日	金の蛙（パナマ運河）／聖地ひとり旅
１１月２０日	リスナーからの「お便り交換の時間」
１１月２７日	金の蛙（金融都市パナマ）／聖地ひとり旅

放送後の番組は、ホームページ(http//japanese.reachbeyond.org) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただきます。（mp3 形式）